

令和7年度

岡山県立博物館協議会

第2回 開催要項

- 1 開会
- 2 展示室視察
- 3 議題
 - (1) 令和7年度事業について
 - ア 展覧会
 - イ 教育普及事業
 - ウ 入館状況
 - (2) 令和8年度展覧会計画（案）について
 - ア 展覧会
 - イ 予算
 - (3) 長期展覧会計画（案）について
 - (4) その他
- 4 閉会

日 時：令和8年3月24日（火） 13：30～

会 場：岡山県立博物館 講堂

(1) 令和7年度事業について

ア 展覧会

令和8年3月24日現在

☆テーマ展

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
3/20～5/6 春季展(1) 48(42)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	☆注文打ち～武将のために作られた刀～ 宇喜多秀家と小早川秀秋 屏風
5/11～6/29 初夏展 50(43)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 船と折り(絵馬) 暮らしと装い	☆学び、つながる江戸時代の人びと 刀剣 備前焼
7/3～8/24 夏季展 52(45)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 船と折り(盆行事・絵馬) 暮らしと装い	☆やきものの見方 備前焼から 戦後80周年企画 戦時下の暮らし 江戸の博物学、どうぶつ大集合 赤羽刀
8/28～10/5 秋季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 ちよつと昔の家のなか一昔の暮らしと道具一 民俗芸能と仮面 宇甘でうまれた刀 雲類	☆吉備津神社 赤羽刀 備前焼
10/10～11/23 特別展①・秋季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 ちよつと昔の家のなか一昔の暮らしと道具一 民俗芸能と仮面 宇甘でうまれた刀 雲類	特別展 花ござ 心おどるい草の世界
11/28～1/12 特別展②・冬季展(1) 47(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 ちよつと昔の家のなか一昔の暮らしと道具一 正月行事	特別展 岡山の文化と出会う —宗教美術から超絶技巧まで—
1/17～3/8 特別展②・冬季展(2) 50(43)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 ちよつと昔の家のなか一昔の暮らしと道具一 雛飾り	特別展 岡山の文化と出会う —宗教美術から超絶技巧まで—
3/13～4/19 春季展 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	☆イロトリドリの備前焼 刀剣

特別展 自己評価シート

展覧会名		特別展「花ござ 心おどる い草の世界」					開催期間	令和7年10月10日(金) ～11月23日(日・祝)		
入館者等	合計	12,202人					収入予算額	1,123千円	実績	2,675千円
	一般	9,014人	65歳以上	1,607人	その他	1,581人	支出予算額	4,980千円	実績(見込)	4,980千円
展示の趣旨・目的 心おどる魅力的なデザインの花ござをご覧いただくと同時に、その背景にある優れた製作技術や、い草産業で活況を呈した岡山の歴史を紹介する。										
入館者アンケート								満足度	92%	
<肯定的> <ul style="list-style-type: none"> ・花ござの歴史を知ることができた。特に映像資料がわかりやすかった。 ・産業面とデザイン性(伝統技術など)の複合的な視点で花ござを説明していた。 ・実際にい草の上に座ったり触ったりできるコーナーが設置されており、五感でい草を感じられた。 <否定的> <ul style="list-style-type: none"> ・説明がない資料があった。資料全てに説明があればわかりやすかった。 										
自己評価		全体評価								
岡山県の花ござ及びい草産業について、時代的にもエリア的にも総合的に捉えた展覧会として多くの資料を展示し、魅力を知ってもらう機会となった。										
個別評価						工夫・改善点				
①資料調査 生産者に協力をあおぎ、聞き取りをしながら、廃棄寸前の資料を調査した。市町の収蔵庫に眠っている資料を網羅的に点検した。従来は磯崎眠亀の錦莞筵ばかり注目されてきたが、比較の意味でも、それ以外の花筵資料を含めて総合的に調査できた。						借用先の館の担当者が複数退職し、急遽それらの館の資料整理と目録作成を行ったため、予定したスケジュールより時間がかかった。突発的なことにも対応できるよう余裕を持って調査スケジュールを組むとともに、担当者だけでなく、複数での体制を検討する必要がある。				
②資料借用 多くの資料を専門業者に依頼せず、職員が公用車運搬したが、予定通り借用することができた。織機等の大型資料については、専門業者へ依頼し、安全に効率よく運べた。						大型資料の運搬は業者に依頼したため、担当者のみで対応したが、運搬車も複数台になるので、安全上、職員も複数で対応する必要がある。				
③展 示 明治期から現代にかけての花筵製品及び生産に関する道具を幅広く展示することができた。						展示室だけでなく1階和室や2階ロビーにも織機や体験用の花ござの展示を行った。さらに、サイネージを活用し、展示室内で写真や映像を放映し好評を得た。				
④返 却 資料数が多い返却先については、担当者だけでなく複数で対応したことにより、安全かつ期限内に返却することができた。						個人所有者からの借用資料については、多くが寄贈希望となったため、特に持ち主が廃棄予定である資料は、将来的な保存も視野に入れて借用する必要がある。				
⑤図録等作成 調査等に時間がとられ、予定通りの日程で図録の原稿が作成できなかった。その後、会期中の発行を目指していたが、展示内容の充実を図ることを優先したため、原稿が完成せず、図録は発行できなかった。						調査・借用・展示の準備と並行して図録原稿を作成することを踏まえたスケジュールを組むとともに、早めに原稿作成等に着手する必要がある。				
⑥関連行事 講演会(1回)、フォーラム(1回)、ワークショップ(4回)、展示解説及び織機の実演会(3回)を実施し、いずれも好評であった。						継承の危機に瀕する伝統的な技術を知ってもらうため、生産者や保存会に依頼して実演等のイベントを実施した。回数が多かったがボランティアの協力のもと効率的に運営できた。				
⑦広 報 プレチラシを作成し、関係者の協力を得て花ござ祭りや大阪万博等で配布した。生産者の協力があがり、ネットワークを活用して県外へ宣伝することができた。						岡山芸術交流と時期が重なったため、展覧会タイトルや掲示物に英語表記を加えた。関連行事等に関して、マスコミに取り上げてもらえるよう工夫する必要がある。				
【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ■報道関係 新聞への掲載回数 26回 ■SNS関係 投稿回数 15回 (X:13回、Facebook:2回) 										

特別展 自己評価シート

展覧会名 特別展「岡山の文化と出会うー宗教美術から超絶技巧までー」				開催期間 令和7年11月28日(金) ～令和8年1月12日(月・祝) 令和8年1月17日(土)～3月8日(日)					
入館者等	合計	11,451人			収入予算額	2,448千円	実績	1,544千円	
	一般	7,639人	65歳以上	1,829人	その他	1,983人	支出予算額	5,056千円	
展示の趣旨・目的								実績(見込)	5,056千円
開館55年を迎えることを記念して、寄託品を含む収蔵品の中から美術工芸分野を特集し、2期に分けて岡山を代表する文化財を一堂に公開する。									
入館者アンケート							満足度	87%	
<肯定的> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの県内の重要文化財を見ることができた。 ・中学生とコラボした館蔵品クイズにより、岡山の文化に詳しくなる仕掛け作りがされていた。 ・超絶技巧で拡大鏡が設置してあり、小さい細工が見やすかった。 									
<否定的> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文にふりがなを増やしてほしい。 ・工芸品の裏側など360度見えるようになっていないとよかった。 									
自己評価		全体評価							
博物館が収蔵する美術工芸分野の優品を一堂に公開し、県内の文化の豊かさを広く知っていただく機会となった。									
個別評価					工夫・改善点				
①資料調査 出品資料のほとんどが収蔵資料であり、定期的に調査を実施した。					担当者のみで調査を行ったが、安全性も考慮すると収蔵資料であっても複数での体制を検討する必要がある。				
②資料借用 事前調査で資料の状態確認や搬送経路を確認していたため、予定通り安全に借用することができた。					2月の借用は路面が凍結していたため、車が搬出場所近くまで寄れず、資料の移動を手運びで行うことがあった。当日の天気に注意し、臨機応変に対応することが必要である。				
③展 示 早めに図面を作成し、課内で協議した。展示に時間がかかる作品が多かったため、事前に準備を進めておき、ほぼ予定通りに展示できた。					各分野の資料が見やすいように展示導線や展示方法などを検討した。工芸品はルーペなどを配置し、細かな部分も来館者に見てもらえるよう工夫した。				
④返 却 事前の打ち合わせと準備を早めに進め、ほぼ予定通り返却できた。					安全確保と学芸員が経験を積むためにも、複数の学芸員で対応する体制を整備する必要がある。				
⑤図録等作成 展覧会図録であると同時に収蔵品図録として刊行した。収蔵品図録は、平成3年の『館蔵優品図録』以来34年ぶりの刊行である。総点数が過去の図録より多く、写真や解説について、一部入稿が遅れたが、期日内に完成した。					原稿執筆・図録編集には相当な労力が必要であり、展示の準備と並行して行うため、余裕あるスケジュールを組む必要がある。 解説と写真を同じ頁に収め、一般の人にも分かりやすい構成とし、専門用語については別途用語解説などで補った。				
⑥関連行事 講演会(2回)、ワークショップ(2回)、展示解説(8回)を実施し、いずれも好評であった。また、子ども向けに館蔵品クイズを作成した。					大人だけでなく子どもも楽しめるような展示解説・ワークショップを実施した。館蔵品クイズでは、I期・II期とも来館いただけるように、種類の異なるシールを用意した。				
⑦広 報 通常の広報先に加えて、所蔵者の寺社の一部にはチラシの配布・ポスターの掲示を依頼した。また、SNSも活用した。					来館者数を増やすためにもチラシなどの広報媒体を早期に作成し、SNSも積極的に活用し、開幕の1ヶ月以上前から広報を行う必要がある。				
【その他】		■報道関係 新聞への掲載回数 37回 ■SNS関係 投稿回数 39回 (X:25回、Facebook:14回)							

〈展覧会内容〉

事業名	テーマ展「注文打ち～武将のために作られた刀～」
期間	令和7年3月20日(木)～5月6日(火)
趣旨	<p>室町時代後期、日本の各地で戦乱が起こるようになると、「数打物」と呼ばれる量産品の日本刀が出回るようになった。一方、注文を受けた刀鍛冶が念入りに鍛えた作は「注文打」として区別され、茎に注文主の名前を刻んでいることがその特徴となっている。</p> <p>戦国期の岡山でも、清光や祐定など当時活躍していた長船派の刀鍛冶を中心に、武将やその家臣のための「注文打」、いわゆるオーダーメイドによる日本刀の作成が行われていた。</p> <p>本展では、備前長船鍛冶による注文打の作品を中心に展示し、刀鍛冶と武将達との関係を紹介する。</p>
主要展示資料	<p>刀 銘 備前国長船孫右衛門尉清光為日笠次郎兵衛尉頼房作之/永禄十年八月吉日 岡山県立博物館蔵</p> <p>短刀 銘 備前国住長船彦左衛門尉祐定為日笠左京助頼家作之/元亀四年八月吉日 個人蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説 3/22(土)、3/29(土)、4/12(土)、4/19(土)、5/3(土・祝)
備考	<p>入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料(～3/30)</p> <p>入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料(4/1～) 入館者数 4, 366人</p>
成果・課題	<p>従来の所蔵品に新規寄託の依頼を受けた刀剣類が加わったことで、県内の武将ゆかりの刀剣を幅広く紹介することができた。しかし、一室全体が刀剣のみの展示となった結果、室内の明度が下がってしまったため、今後は全体的な見やすさも意識した展示を行っていきたい。</p>

事業名	テーマ展「学び、つながる江戸時代の人びと」
期間	令和7年5月11日(日)～6月29日(日)
趣旨	<p>江戸時代の岡山では、全国に先駆けて寛文10(1670)年に設立された閑谷学校をはじめ、数多くの学びの場ができ、多くの人がそこで学ぶようになった。そうした人たちのなかからは、各地に出かけてその地の人とつながって学びを深め、活躍する人も登場した。</p> <p>本展では、江戸時代に各地の人とつながりを持ちつつ学びを深めた古川古松軒や武元登々庵など、岡山ゆかりの人物を中心に取り上げ、彼らの手紙や著作などからその学びや交流の広がりを紹介する。</p>
主要展示資料	<p>宇田川玄随書状 岡山県立博物館蔵</p> <p>絹本著色古川古松軒像 岡山県立博物館蔵</p> <p>窪田浅五郎算術免状 岡山県立博物館蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説 5/17(土)、5/31(土)、6/14(土)、6/28(土)
備考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 入館者数 3, 566人
成果・課題	<p>宇田川玄随、窪田浅五郎、阪谷朗廬、武元登々庵、古川古松軒の5人に関する古文書を中心に取り上げて紹介した。これまで紹介していない資料も展示することができた。</p> <p>古文書を読んでもらえるような補助キャプションを作成するなど工夫を加えたものの、依然として古文書を読むのが難しいとの声もあった。今後、さらに工夫したい。</p>

事業名	テーマ展「やきものの見方 備前焼から」
期間	令和7年7月3日(木)～8月24日(日)
趣旨	<p>やきものを展示していると、「どこを見たらよいかわからない」という声をよく聞く。そのため、岡山県を代表するやきものである備前焼を取り上げ、やきものの作られた時代を知るとき、どこに注目したらよいかを伝える展示を企画した。</p> <p>本展では、岡山県を代表するやきものである備前焼を通して、研究者がやきものの製作時期を調べるとき、注目しているポイントを紹介する。</p>
主要展示資料	<p>備前焼 手榴弾 12口 昭和20年(1945) 山本陶秀作 岡山県立博物館蔵</p> <p>備前焼 甕 1口 元亀2年(1571) 岡山県立博物館蔵</p> <p>備前焼 東下り置物 1口 江戸時代 岡山県立博物館蔵</p>
関連行事等	<p>学芸員による展示解説 7/5(土)、7/19(土)、8/2(土)、8/23(土)</p> <p>「ふれて知る、やきものの注目ポイント」 8/24(日)</p>
備考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 入館者数 3,670人
成果・課題	夏休み期間であるため、子どもをはじめとする幅広い年齢層に親しみやすい展示となるように、作品に触ってもらえるコーナーを設けた。また、写真パネルを多数掲出し、形の変遷などをわかりやすく伝えるよう試みたが、今後もさらに多くの方に興味を持ってもらえるよう工夫したい。

事業名	テーマ展「吉備津神社」
期間	令和7年8月28日(木)～10月5日(日)
趣旨	<p>備中国一宮である吉備津神社の本殿は、比翼入母屋造の独特な屋根を持ち、「吉備津造」とも呼ばれる美しい外観で知られる。この本殿は、本殿から突き出すようにして建つ拝殿とともに応永32(1425)年に再建されたもので、度重なる修復を経て現在まで大切に護り継がれ、令和7(2025)年には再建から600年の節目を迎える。</p> <p>本展では、本殿および拝殿の再建600年を記念して、吉備津神社の歴史を示す貴重な古文書や奉納された文化財を紹介する。</p>
主要展示資料	<p>国宝(附) 明和六年 本殿棟札 吉備津神社蔵</p> <p>国宝(附) 弘化三年 本殿棟札 吉備津神社蔵</p> <p>県重要文化財 吉備津宮法楽一万句連歌発句 吉備津神社蔵</p> <p>県重要文化財 大太刀 銘 備州長船秀幸 吉備津神社蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説 8/30(土)、9/6(土)、9/13(土)、9/20(土)、9/27(土)、10/4(土)
備考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 入館者数 7,275人
成果・課題	吉備津神社本殿・拝殿の再建600年という時宜にかなった展示として企画した。今回の展示では、平成19(2007)年度に吉備津神社を取り上げた特別展を開催した際に取り上げていない資料を紹介できた。展示順路のわかりにくい箇所があり、順路がわかりやすいように展示を構成することが今後の課題である。

事業名	テーマ展「イロトリドリの備前焼」
期間	令和8年3月13日(金)～4月19日(日)
趣旨	<p>一般的な備前焼のイメージとは異なり、鮮やかな色で彩られた「三十六歌仙置物」。岡山藩主であった池田家の蔵で大切に保管されていたこともあり、江戸時代に作られて以来、広く公開されたことはもちろん、すべてを紹介する写真もこれまでなかった。</p> <p>本展では、彩色備前(絵具で着色した備前焼)の代表作と語り継がれながらも、いつしか行方がわからなくなり、研究者が探し求めていた「三十六歌仙置物」を、関連作品とともに紹介する。</p> <p>なお、全容がわかる状態で本作が公開されるのは、このたびが初めてとなる。</p>
主要展示資料	<p>備前焼(色彩備前) 三十六歌仙置物</p> <p>備前焼(伝閑谷焼) 獅子置物 18世紀 岡山県立博物館蔵</p> <p>備前焼(色彩備前) 東下り置物 18世紀 岡山県立博物館蔵</p> <p>備前焼(色絵備前) 輪花皿 19世紀 岡山県立博物館蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説 3/14(土)、3/28(土)、4/11(土)
備考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期間	令和7年8月6日(水)～8月8日(金)
概要等	<p>県内の中高校生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。</p> <p><内容> 3日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。</p> <p>1日目 開講式、施設見学、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器、美術)、写真の撮影体験</p> <p>2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、民俗資料)</p> <p>3日目 文化財の取り扱い体験(古文書)、閉講式</p>
参加者数	中学生 6名 高校生 10名 計 16名
成果・課題	<p>昨年度の課題をもとに、今年度は午前と午後の2部制とし、1日の体験時間を短くした上で、開催日数を増やし3日間の日程で開催した。</p> <p>2部制としたことで、部活動などの予定がある生徒でも、参加することができるようになった。</p> <p>当日体調不良者が出たことから、今後は体調不良者への対応等、当日の運営体制の強化を図る必要がある。</p>

事業名	館内授業・出前授業
期間	通年(令和7年4月～令和8年3月)
概要等	<p>県内の小中高校生等が博物館に来館し、学芸員の解説のもと展示見学や体験活動を行う館内授業と、学芸員が学校に実物資料を持って行き、解説や体験活動を行う出前授業を実施したほか、校外学習の利用等で自由見学の受入や体験資料(昔のくらし)の貸出を行った。</p> <p><授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山の戦国時代 ・昔のくらしと道具のうつりかわり ・備前焼 ・江戸時代の岡山の人々
実施校数	<p>館内授業 36件(小19、中7、高2、特2、大6) 自由見学 20件(小7、中10、高3)</p> <p>出前授業 8件(小5、高1、特1、大1) 体験資料貸出 5件(小5)</p>
成果・課題	<p>昨年度より館内授業は2件、自由見学は11件増加した。出前授業は12月で募集を締め切ったため13件減少した。出前授業は昨年度と同様に「昔のくらし」の希望が多く、希望日程が重なったことなどにより対応できなかった学校には、体験資料の貸出を行った。</p> <p>出前授業を希望する学校は岡山市内の学校が多数を占めており、地域バランスに偏りがあるため、今後は岡山市外の学校には、体験資料の貸出も含めた出前授業の広報を強化する必要がある。</p>

事業名	博物館講座
期間	令和7年6月8日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)
概要等	<p>第一線で活躍する研究者と当館学芸員による連続講座を実施。(生涯学習大学連携講座) 4日間4講座(1講座90分)、定員120名</p> <p>第1回 「民俗学へのご招待ーそこからどんな世界がみえる？」 講師:今石みぎわ氏(東京文化財研究所 無形文化遺産部主任研究員)</p> <p>第2回 「学びと交流ー江戸時代岡山の人びとー」 講師:平田良行(学芸員)</p> <p>第3回 「岡山の彫刻について」 講師:山本宏美(学芸員)</p> <p>第4回 「岡山県内の歴史的建造物について」 講師:内池英樹(副館長)</p>
受講者数	92名
成果・課題	<p>受講者数が昨年度より7名増加したが、定員には及ばない状況である。より積極的に広報を行うとともに、受講者に満足して継続的に参加していただけるように各学芸員が自らの研究を深めて魅力ある講座を行う必要がある。</p>

事業名	中学校職場体験
期間	令和7年11月5日(水)～7日(金)
概要等	<p>中学2年生を対象にした職場体験の受け入れ <内容> 学芸業務や受付・看視等の仕事を体験</p>
実績	受入校 6校 参加生徒 11名
成果・課題	<p>昨年度と同じく、受入校を最大6校(各校2名まで)に限定し、資料整理や受付・看視業務などの日常的な業務と、特別展関連イベントの実施準備なども体験してもらった。</p> <p>学芸員の業務や資料に興味・関心のある生徒がいる一方、博物館についてほとんど知らない生徒も多く参加するため、体験を通じて博物館や文化財のことを学び、知ることのできるプログラムを継続的に考え、提供していく必要がある。</p>

事業名	博物館実習
期間	令和7年8月20日(水)～24日(日) *博物館見学実習は通年(令和7年4月～令和8年3月)
概要等	<p>博物館法に規定する学芸員資格の習得を希望する大学生を対象に、博物館において実習の機会を提供し、人材育成に資するとともに博物館活動の普及を図る。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ①講義実習(3日間) 各分野の文化財の取り扱いを通してその特性を学ぶ ②支援実習(2日間) 博物館の行事を体験して実務を学ぶ ③博物館見学実習(1日)博物館施設の見学
実績	参加者 博物館実習 18名 博物館見学実習 3校
成果・課題	<p>県内の大学に通学する学生と県内出身の学芸員志望者を受け入れている。学芸員育成は博物館の大切な役割であり、本館での実習経験者が学芸員として就職するなど成果も上がっているため、継続していく必要がある。</p>

事業名	教員のための博物館の日 in 岡山県立博物館 2025
期間	令和7年8月2日(金)
概要等	<p>県内の教員を対象に、授業に利用できる資料の紹介や、展示室の案内、さらには博物館を利用した授業づくりについて紹介することにより、学校教育における社会教育施設の活用促進を図る。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内を巡り、授業に利用可能な資料を紹介 ・博物館を利用した授業の事例を紹介 ・授業づくりの相談 など
実績	参加者 15名
成果・課題	<p>今年度は2年目の取り組みであったため、1年目の昨年度とは内容を変更し、仏像を見るときポイント等を美術担当の学芸員が説明した。さらに、具体的に授業で利用するイメージを持ってもらえるように、展示室の利用方法等の説明を工夫した。</p> <p>様々な学校行事等を勘案して日程を設定したが、県内で開催された全国高等学校総合体育大会と日程が重なったこともあり、教員の参加者は少なかった。一方、教員志望の学生も参加したため、実際に教職に就く前に、博物館資料を用いた授業を見てもらう機会を作ることができた。</p> <p>来年度は、特別支援学校が利用した際の具体的な事例や博物館を活用した不登校児童・生徒への取り組みなどの内容も取り入れることを検討している。</p>

ウ 入館状況

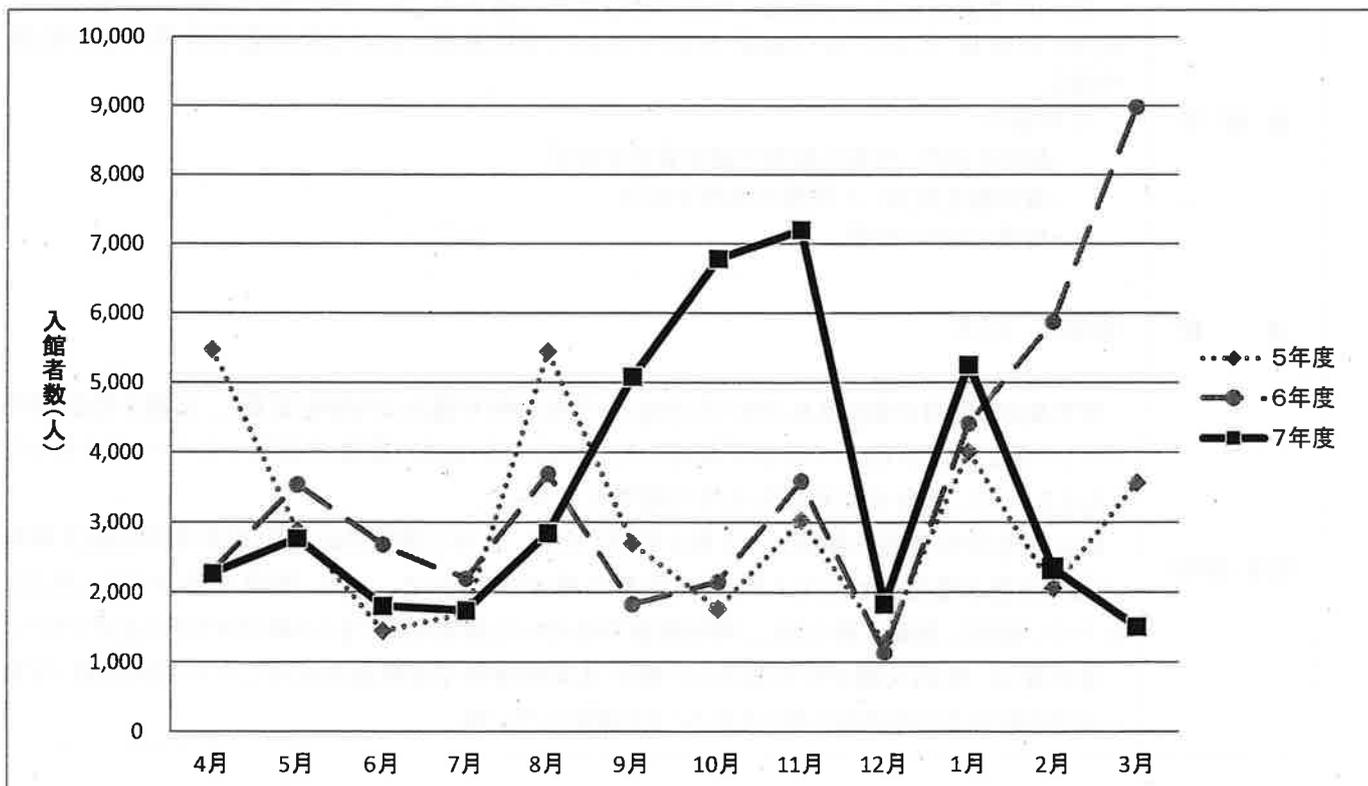
月別入館者数

令和8年3月8日現在

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	3/8現在
5年度	特別展	-	-	-	553	5,449	1,441	1,008	3,034	426	-	-	-	11,911	11,911
	特別展以外	5,478	2,883	1,447	1,149	-	1,264	757	-	866	4,009	2,060	3,567	23,480	21,782
	計	5,478 (213)	2,883 (132)	1,447 (96)	1,702 (139)	5,449 (110)	2,705 (85)	1,765 (95)	3,034 (118)	1,292 (86)	4,009 (175)	2,060 (109)	3,567 (187)	35,391 (1,545)	33,693 (1,416)
6年度	特別展	-	-	-	-	-	-	1,291	3,429	-	237	5,878	7,899	18,734	14,742
	特別展以外	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,833	860	159	1,141	4,172	-	1,086	23,672	22,586
	計	2,306 (198)	3,541 (251)	2,681 (172)	2,197 (208)	3,696 (335)	1,833 (190)	2,151 (194)	3,588 (200)	1,141 (151)	4,409 (257)	5,878 (160)	8,985 (242)	42,406 (2,558)	37,328 (2,396)
7年度	特別展	-	-	-	-	-	-	5,509	7,197	1,835	5,258	2,343	1,511	23,653	23,653
	特別展以外	2,268	2,771	1,807	1,741	2,848	5,085	1,271	-	-	-	-	-	17,791	17,791
	計	2,268 (283)	2,771 (260)	1,807 (244)	1,741 (357)	2,848 (259)	5,085 (338)	6,780 (516)	7,197 (562)	1,835 (370)	5,258 (451)	2,343 (423)	1,511 (146)	41,444 (4,209)	41,444 (4,209)

※()は内外国人数

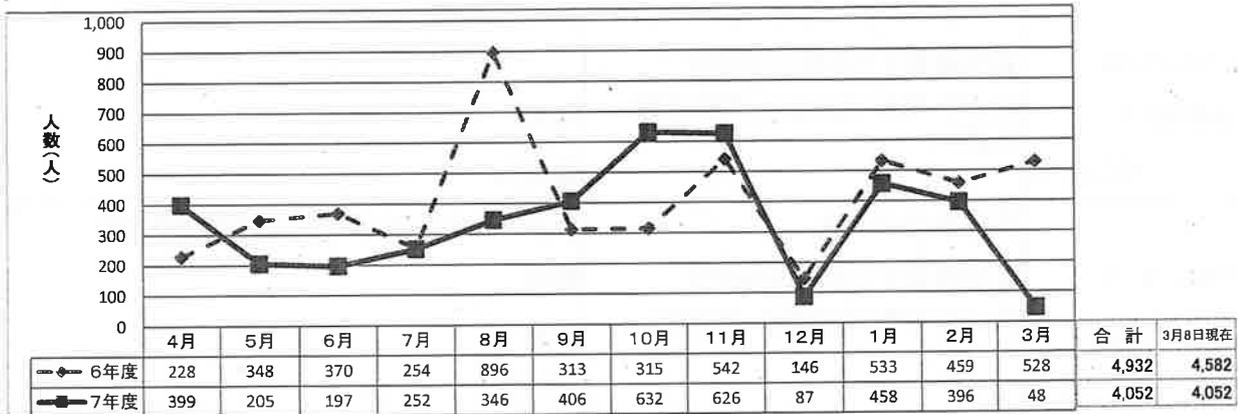


展覧会別入館者

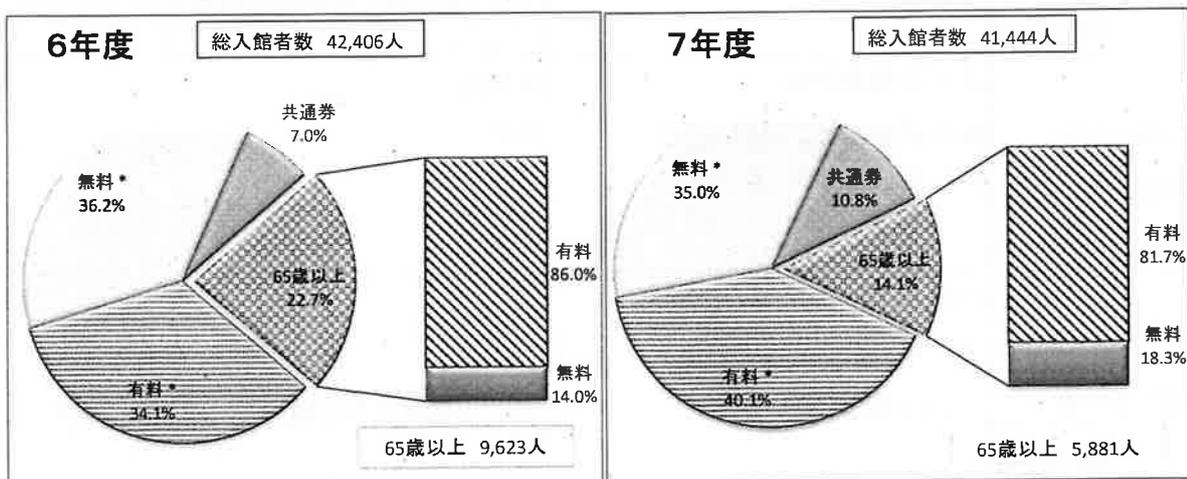
令和8年3月8日現在

展覧会名	入館者数実績	入館者の割合			
		一般	65歳以上	高校生以下	
テーマ展	注文打ち～武将のために作られた刀～	3,280人	66.4%	18.2%	15.4%
	学び、つながる江戸時代の人びと	3,566人	68.8%	23.0%	8.3%
	やきものの見方 備前焼から	3,670人	73.1%	12.9%	14.0%
	吉備津神社	7,275人	84.8%	7.7%	7.6%
特別展	花ござ 心おどる い草の世界	12,202人	77.2%	13.2%	9.6%
	岡山の文化と出会うー宗教美術から超絶技巧までー	11,451人	75.2%	16.0%	8.8%
計	41,444人	76.0%	14.2%	9.8%	

高校生以下の入館状況



入館者別割合《令和7年度は3月8日現在の数値》



注：有料* 無料* は、65歳未満の入館者をいう。

(2) 令和8年度展覧会計画(案)について

ア 展覧会

令和8年3月24日現在

☆テーマ展

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
3/13～4/19 春季展 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(旅と行楽)	☆イロトリドリの備前焼 刀剣
4/24～6/7 初夏展 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(五月節句)	☆弘法寺 脚供養面 刀剣 イロトリドリの備前焼
6/12～7/26 夏季展(1) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(船と祈り・麦稈真田 花ごぞ)	☆奉納刀(仮) 絵馬 備前焼
7/31～9/12 夏季展(2) 44(38)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(船と祈り・盆行事)	☆進め! ポンポン船 木造船の世界(仮) 絵馬 刀剣 備前焼
9/18～11/23 特別展①・秋季展 67(58)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(民俗芸能)	特別展 宇喜多直家と秀家 ～ライバルとしのぎを削った サムライたち～
11/28～1/3 冬季展(1) 47(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(冬の暮らし)	☆未定 美術 刀剣 備前焼
1/9～3/7 特別展②・冬季展(2) 58(51)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(冬の暮らし)	特別展 桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉
3/12～ 春季展 20～(17～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(旅と行楽)	☆文人、藩士(仮) 美術 刀剣 備前焼

〈特別展内容〉

事業名	特別展『宇喜多直家と秀家～ライバルとしてのぎを削ったサムライたち～』	
期間	令和8年9月18日(金)～11月23日(月・祝)	
趣旨	<p>宇喜多直家は浦上氏の家臣だったが、1575年に仕えていた浦上宗景を領国から追い出し、備前・美作のほとんどを手中に収めた。直家は拠点を岡山城へ移し、戦国時代を代表する武将として名を馳せた。直家の跡を継いだ宇喜多秀家は、羽柴(豊臣)秀吉の支持を得ることで勢力を拡大し、秀吉の天下統一後は、五大老の1人として、豊臣政権のもとで重要な役割を果たした。</p> <p>近年、岡山県内はもちろん、県外においても宇喜多氏に関する資料の発見が続いている。</p> <p>このたびの展覧会では、これまで知られていた代表的なものに加え、こうした新出資料を一堂に集め、岡山を代表する戦国武将、宇喜多直家と秀家の一生を紹介する。</p>	
主要展示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財 絹本著色宇喜多能家像 大永4(1524)年 ・宇喜多直家書状 天正8(1580)年 ・岡山県指定重要文化財 宇喜多秀家黒印状 文禄3(1594)年 ・短刀 銘 来国次(名物 鳥飼来国次) 鎌倉時代 ・石川県指定文化財 色々威二枚胴具足(本多政重所用) 戦国時代 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県立博物館蔵 個人蔵 和気町安養寺蔵 黒川古文化研究所蔵 加賀本多博物館蔵
関連行事等	(1)記念講演会 (2)学芸員による展示解説 (3)甲冑着付け体験	
備考	入館料 大人460円、65歳以上230円、高校生以下無料	会場 第3・4展示室

事業名	特別展『桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉』	
期間	令和9年1月9日(土)～ 令和9年3月7日(日)	
趣旨	<p>備前焼は岡山県を代表するやきものである。基本的には釉薬を使わず、800年以上にもわたり生産が続いてきた。釉薬の使用が一般化した今では、このようなやきものはとても珍しく、国内だけではなく、海外からも高い関心を集める。芸術家の北大路魯山人は備前焼を、「無釉陶のなかでも、群を抜いて美しい」「土そのものが世界に類なきもの」とする。</p> <p>桃山時代は、他の時期に類を見ない、躍動感あふれる形のやきものが作られた時代である。当時の流行を積極的に取り入れ、数々の優品を今に伝える備前は、各地で作られた桃山陶について考えるとき、基準となる産地として注目を集めてきた。</p> <p>このたびの展覧会では、備前焼の研究成果に基づきながら、桃山陶の変遷を紹介すると同時に、その特徴や魅力について改めて考える。</p>	
主要展示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県指定重要文化財 備前花瓶 永禄12(1569)年 ・重要文化財 備前水指 銘 破家 16-17世紀 ・岡山県指定重要文化財 備前壺 慶長15(1610)年 ・重要文化財 信楽一重口水指 銘 柴庵 16-17世紀 ・重要文化財 鼠志野鶴鶴文鉢 16-17世紀 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡寺光明院蔵 北陸大学蔵 岡山後楽園蔵 東京国立博物館蔵 東京国立博物館蔵
関連行事等	(1)記念講演会 (2)学芸員による展示解説	
備考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料	会場 第3・4展示室

イ 予算

令和8年度予算

【歳入】

(単位：千円)

財源内訳	8年度	7年度	増減	備考
使用料及び手数料	3,928	4,645	▲ 717	入館料、講堂使用料
諸収入	3,100	3,173	▲ 73	電気代私費負担分
一般財源	93,660	89,326	4,334	
合計	100,688	97,144	3,544	

【歳出】

(単位：千円)

項目名	8年度	7年度	増減	備考
①展覧会事業	19,236	14,903	4,333	特別展開催経費の増
＜内訳＞				
・テーマ展(6回)、平常展	5,236	4,867	369	
・特別展(2回)	14,000	10,036	3,964	
②教育普及事業	200	200	0	
＜内訳＞				
・博物館講座	200	200	0	
③資料購入費(修繕費)	285	285	0	
④資料保存地域支援活動	213	213	0	
⑤博物館協議会	295	295	0	
⑥広報強化・館内環境整備	0	4,411	▲ 4,411	
⑦維持管理費	80,459	76,837	3,622	人件費・設備修繕費の増
合計	100,688	97,144	3,544	

(3) 長期展覧会計画(案)について

年 度		特 別 展	
8	2026	宇喜多直家と秀家 ～ライバルとしのぎを削った サムライたち～	桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉
9	2027	紙上のながめ(古地図、歴史)	船と暮らしー木造船の世界ー(民俗)
10	2028	岡山の涅槃図(美術)	正阿弥勝義(工芸)

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和7年2月5日～令和9年2月4日）

令和8年3月24日現在

番号	氏名	区分	現職	就任	備考
				年月	
1	仲原美代子	学校教育関係者	備前市立日生西小学校長	R 7. 2	
2	忠政勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻田詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	栗原宏之	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 5. 4	
5	明楽香織	"	NPO法人らんとん職員	R 5. 2	
6	美咲美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	青山昌史	学識経験者	公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会 事務局長	R 7. 2	
8	岡野英美	"	NPO法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	富山明寿	"	小倉産業（株）代表取締役社長	R 7. 2	
10	大久保範子	"	岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授	R 7. 2	
11	三田智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	内田章文	"	RSK山陽放送（株）取締役	R 3. 2	
14	岡田智美	"	（株）山陽新聞社編集局文化部長	R 5. 2	
15	鳥井良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日
岡山県条例第47号〕

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日
岡山県教育委員会規則第13号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べることができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	浜原浩司	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	細 川 誠	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長	坂 本 恵
	副 参 事	國 定 優 次
	主 任	上 岡 義 貴
	主 事	株屋根 睦 生
学 芸 課	学芸員 (副参事)	重 根 弘 和
	学芸員 (主任)	松 井 今 日 子
	学芸員 (主任)	岡 崎 有 紀
	学 芸 員	平 田 良 行
	学 芸 員	馬 野 琴 巳
	学 芸 員	山 本 宏 美